

[斉藤 竜大]

早稲田大学 創造理工学部 建築学科4年

【期間：8月7日～8月19日】



■ 錦江町に到着！

錦江町に初めて着いたとき、それが初めてのはずなのになぜかそういう感じはしませんでした。どことなく懐かしく、居るだけで心が落ち着く場所。それは、錦江町の雄大な自然がもつ懐の深さであったり、地域の方々の温かい気持ちによって生まれる柔らかい雰囲気、東京から来た僕を何の抵抗もなく受け入れてくれたからだと思います。

■ いざ活動開始！

2週間というインターン期間の中では本当にいろいろな事がありましたが、僕が何より来てよかった、と思うのは、活動を通じて錦江町の方々とお話することで、一人一人の地域に対する想いや考えに触れることができたことです。そこには都会の地域には失われてしまった、“何か大切なもの”を思い出させてくれる力がありました。最大のイベント、やまんなか音楽会を無事成功させたときには、ただ嬉しいというだけではない、全身から喜びが湧き出てくるような気持ちを経験することができました。

■ ホームステイ！

行くまではやはりホームステイに対する不安や緊張もありましたが、みなさんととても温かく迎えてくださり、気づいたときにはそんなものはどこかへ吹き飛んでいました。錦江町でのくらしぶりを話して頂いたり、逆に僕が東京でのくらしの様子をお話したり、本当に楽しい時間を過ごすことができました。何より嬉しいことは、鹿児島に僕の帰る場所ができたことです。お世話になった金中さん、大山さん、遊喜さん、本当にありがとうございました。



[戸張 愛子]

法政大学 現代福祉学部 臨床心理学科1年

【期間：8月6日～8月18日】

錦江町で過ごした13日間、常に思っていたのは、この素敵な時間を自分の大切な友人や家族と共有できたらいいのに、ということでした。

いままで見たことのないような空、夕日、海とつながるグラデーションには、幸せのため息しか出なかったし、山々のみどりに包みこまれるような気持ちは、初めてでした。錦江町の色の豊かさには、いつだって安心させられました。

でもそんな風にしたのも、町の方たちのあたたかみがあったからだと思います。受け入れをしてくださった家族をはじめとして、これからずっと一生忘れたくない！と思う言葉をたくさんいただきました。



人をおもう、なんだか心地のいいあたたかみでいっぱい、錦江町に入ってみて、自分の知らないことはたくさんあるんだなあ、ということを感じました。多くの人と話してみたい！と意気込んで、錦江町を選んだ私は、本当に幸せものです。

次にこの町に帰ってくるときは、パワーアップしているように自分を磨いてくるので、またあたたかく受け入れていただきたいです。本当に錦江町が大好きです。今だけはさようならですが、またいつか必ず。



～ 受け入れ家庭から一言 ～ 遊喜 光範 (家族)

インターン生の受け入れが3年目になりますが、毎年色々な大学の話や都会の事が聞けて楽しみにしています。

今回は2名の大学生を数日間受け入れ、子供もパソコンなどを教えてもらうなどとても楽しそうでした。

受け入れ期間が短かったため、農業体験や遊びに行くなど触れ合う時間が少なかったため、今後は丸々2週間受け入れていきたいと考えています。このインターン事業では、お互いに新たな発見やいい経験ができるので多くの方々にこの事業を知って頂き、受け入れ家庭が1つでも多くなればと思っています。

